

しろた

中部小ルール「しろた」
し…しっかりそうじ
ろ…ろうかはしずかに
た…たくさんあいさつ



学校 HP

神崎市立千代田中部小学校

令和7年度 第17号

令和 8年 2月 13日

文責 校長 坂口博之

学校教育目標

「賢く 優しく 遅しく」

夢や目標に向かってチャレンジする児童の育成

神埼特産のヒシ激減に衝撃！

ヒシ激減

2月12日(木)の「佐賀新聞」朝刊の記事を見て衝撃が走りました。それは「神埼特産ヒシ激減」の記事が一面に大きく取りあげられ、私の目に飛び込んできたからです。

猛暑や外来生物の食害と生産者存続危機、深刻

ヒシ激減の主な要因に「猛暑や外来生物の食害が深刻であること」「生産者も2人で、存続の危機にあること」の2つがあげてありました。

かつて繁殖していたクリークでは、夏場の高温でヒシが煮えて育ちにくくなったり、オニビシや外来種の浮草が強く、育ってもカメなどの外来生物に水中の茎を食べられたりして、現在はヒシが生育しにくい環境になっています。雨が少なく、栄養のある水が下流まで来ないのも要因の1つと考えられています。

また、多いときには16人いた生産者が現在は2人にまで減っています。田んぼの水を張り替えたりこまめに雑草を取ったり、秋にはヒシの実を乾燥させ、冬には一つずつ拾って収穫したりする作業はどれも手作業であるためとても手間がかかり、栽培するのが難しく、若い人が始めにくい環境となっています。

神埼市の特産品がなくなる危機

神崎市によると、ヒシの採取量は2018年度1662キロをピークに激減し、昨年度は50キロにとどまったそうです。本校では、3年生が「ふるさと学習」としてヒシについて学習をしています。ゲストティーチャーとして、和菱組合の永沼会長や大串製菓の大串代表、西九州大学の安田教授に来校していただき、児童は様々なことを学習させていただいてきました。神埼市の特産品がなくなる、ヒシの皮を使った「ひしぼうろ」も存続が危ぶまれている事態にまでなっていることに強い衝撃を受けました。

考えなければ…

効果的な生産方法や商品開発についてはヒシに携わる地域の方々をお願いするしかありませんが、地球温暖化防止のために自然環境を守ることについては、自分たちが身近にできることをより一層考え、実践していかなければならないと強く思いました。

参考資料 「佐賀新聞」2月12日木曜日 朝刊

いろいろな地域の方々に学ぶ

いのちとは… 神様から与えられた時間 1月27日(火)

元小学校校長 村岡智彦さんによる 「いのちの授業」(6年)

○いのちはなぜ大切か？

- 1 連続…いのちは父・母(先祖)からのバトンである。
- 2 有限…死が必ず来る。限界がある。
- 3 情愛…親がとて深く、大切に思っているものである。

○「次はあなたたち6年生が、バトンを渡す重要な役割を果たす番です。」
「毎年、日本では約500名の児童生徒が自殺しているが、自ら命を絶つようなことはあってはならないし、追い詰めるいじめも絶対に許されるものではありません。」と力説されました。



「お茶の淹れ方教室」 おいしいお茶の淹れ方を体験 1月30日(金)

佐賀県農業協同組合杵島園芸センター 園芸指導課指導員の方(3名)による授業(4年)

○お茶の歴史について ※諸説あります

- ・およそ 830 年前、栄西禅師が中国からお茶の種子を持ち帰る。
- ・お茶の栽培発祥地は佐賀県嬉野市

○お茶の効能について

- 1 かぜ・インフルエンザ予防…(成分:カテキン)
- 2 虫歯予防 …(成分:フッ素)
- 3 眠気覚まし …(成分:カフェイン)
- 4 リラックス効果 …(成分:アミノ酸)

○おいしいお茶の淹れ方のポイントについて(通常の場合)

- 1 お湯の温度 … 70℃
- 2 茶葉の量 … 3g
- 3 待ち時間 … 60秒
- 4 注ぎ方 … 優しく注ぐ。回しつぎをして、濃さを均一にする。

○おいしいお茶の淹れ方を実演していただき、その後実際にお茶を淹れてみることにチャレンジしました。



「千代田の伝統をさぐろう」 高志狂言 2月3日(火)

高志狂言保存会、島信秀さんによる「ふるさと学習」(3年)

- 狂言とは、台詞で笑わせ、見る者を楽しませるもの
- 中部小の高志狂言クラブは2000年から続いている。
- ・毎年、4、5、6年に、伝統を引き継いで演じてみようと思う人を募り、所作を教えてきた。

○高志神社の歴史を紐解いてみると…

- ・約1900年前に建てられた
- ・現在の本殿は1704年、拝殿は1883年、神門前の神橋は1720年につくられたもの(今から300年ほど前)

○実際に「部須」の台詞を言う体験、扇子で仰ぐ体験もしました。



オンライン英会話(5年) 2月4日(水)

5年生はオンライン英会話を年に9回行います。オンライン英会話は、外国人の先生と1対1で25分間英語を使って会話をします。各レッスンで学習したことの最後の実践の場となっています。

今回の単元は、レッスン7「I love my town.」でした。学習した「wonderful」や「new/old」などの形容詞の復習の後、会話の中で使う実践として佐賀県の素敵な場所をオンラインの先生に紹介しました。

今回児童は、「前と比べて言える英語が増えました」「とてもスラスラ言えてうれしかったです」などの感想をもち、8割以上がポジティブな感想でした。

会話をするときには、とても緊張するようですが、毎回何とか伝えたいことを伝えようとがんばっています。

次회가、今年度最終回になります。

